1919.	工業高等	専門学校	開講年度	令和04年度 (2	2022年度)	授美	<b>養科目</b>	都市・空間デザイン論			
科目基礎	情報										
科目番号		AC043			科目区分		専門 / 選択				
受業形態		授業			単位の種別と単位数		学修単位: 2				
開設学科		建築学専	攻		対象学年 専1						
開設期		後期			週時間数	1	<b>後期:1</b>				
教科書/教材	材	適宜プリント配付。副読本は次の通り。小嶋他著『空間練習帳』彰国社, J. ゲール著・北原訳『人間の街』鹿島出版 , シビックプライド研究会編著『シビックプライド2(国内編)都市と市民のかかわりをデザインする』, 伊藤他市計画とまちづくりがわかる本』彰国社。									
旦当教員		佐土原 洋平									
到達目標	Ę										
2. 都市空 3. 多様な	≧間を観察し 注体による	その特性を	要性とそこで大切に とらえ,説明できる しての都市・地域デ	こと。		•					
レーブリ	リツク		T		T			T			
				理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安(豆		未到達レベルの目安			
平価項目1			とそこで大切にな	デザインの重要性 なる考え方につい 田に説明できるこ	サスティナブルデザインの重要性 とそこで大切になる考え方につい て説明できること。			サスティナブルデザインの重要性 とそこで大切になる考え方につい て説明できない。			
平価項目2			都市空間を観察しえ,説得力のあると。	都市空間を観察しその特性をとら え,説得力のある説明ができること。 お市空間を観 え,説明でき		しその特性をとら こと。		都市空間を観察しその特性をとらえ,説明できできない。			
平価項目3			多様な主体によるの都市・地域デサ の都市・地域デサ , 的確かつ詳細に	る協働作業として デインについて こ説明できること	多様な主体による協働作業として の都市・地域デザインについて説 明できること。			多様な主体による協働作業として の都市・地域デザインについて診 明できない。			
学科の到	」達目標項	目との関	 係		•						
学習・教育	到達度目標 到達度目標 到達度目標	B-2									
<b>教育方法</b>	等										
本科目では、これからの時代に呼応した豊かな都市空間を創造する方法と、そこにおけるポイントを理解する、以下の3点について授業を行います。 (1)課題1:サスティナブルデザイン事例研究 サスティナブルな都市づくりに貢献する都市デザイン事例、建築デザイン事例についての研究を行い、各人のもって受講者でディスカッションを行う。 なお、サスティナブルデザインについて理解を深めることは、これからの「都市・空間デザイン」を考える意欠かせない。 (2)課題2:都市空間の特性を捉えるフィールドワークある視点に基づき都市空間を観察する課題に取り組む。この課題への取り組みを通じて、都市空間を体験するある視点に基づき都市空間を観察する課題に取り組む。この課題への取り組みを通じて、都市空間を体験するある視点に基づき都市空間の質を捉える眼やセンスを養うことの必要性を感じてほしい。なお、ここでの課題は2種類に今定。 (3)課題3:都市・地域デザイン事例研究多様な主体による協働作業として都市・地域のデザインを捉え、事例研究を行う。このことを通じて、多様がよる協働作業として都市・地域デザインの進め方と、その過程で大切になる視座とポイントを理解する。なお、本科目では、SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」について学ぶ。								Dいての研究を行い,各人の成果を ・空間デザイン」を考えるうえでは 通じて,都市空間を体験することの ら,ここでの課題は2種類用意する このことを通じて,多様な主体に ペイントを理解する。			
本科月 その内容 り取りが		では、各課題の内容にあわせて行うレクチャの他、授業時間外でデータ収集・分析をしてもらい、授業時間に こついてのチェックを行いながら、各課題に関連する知識等を修得していく。授業時間中に有意義な意見のやできるよう、各自しっかりと準備をして授業に臨むこと。また、本科目では、授業時間外で積極的にフィールで行うことも求める。									
は, そこに の上に成り こうした 立つもので		にある要素群や地域 り立つものであり, た都市空間を扱う本 である。	-計画系分野の科目ですが,本科目の対象はその枠内にとどまるものではない。本科目が対象とする都市空間 -ある要素群や地域の人々のくらしだけでなく,それらの背景にある歴史文化の蓄積なども含めて多様な条件 )立つものであり,その秩序を解読するには広い視野と知識が必要だからである。 -都市空間を扱う本科目は,これまで学んだ授業の成果はもちろん,日常生活で得た知識・経験の上にも成り である。 - 								
受業の属	性・履修		,				//-				
	イブラーニン		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u>,</u>		□ 実務経験のある教員による授			
受業計画	ī										
又未引世		 週				油ブレイ	が一番				
			授業内容				)到達目標 )日的と構	おっぱんち ナンウブバーショルナンナタラ			
	1	1週	オリエンテーション	,		本科日0.  知る。	/ロロゾ (特/	成,進め方,ならびに評価方法等を			

授業計画								
		週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期		1週	オリエンテーション	本科目の目的と構成,進め方,ならびに評価方法等を知る。				
		<ul><li>2週</li><li>3週</li><li>4週</li><li>5週</li><li>6週</li></ul>	サスティナブルデザイン事例研究(ブレインストーミング)	サスティナブルデザインの重要性とそこで大切になる 考え方について説明できること。				
			サスティナブルデザイン事例研究(レクチャ)	サスティナブルデザインの重要性とそこで大切になる 考え方について説明できること。				
	340		サスティナブルデザイン事例研究(レクチャとミーティング)	サスティナブルデザインの重要性とそこで大切になる 考え方について説明できること。				
	3rdQ		サスティナブルデザイン事例研究(発表会とディスカ ッション)	サスティナブルデザインの重要性とそこで大切になる 考え方について説明できること。				
			都市空間の特性を捉える課題 1 (ショートレクチャとフィールドワークの準備)	都市空間を観察しその特性をとらえ,説明できること。				
		7週	都市空間の特性を捉える課題 1 (フィールドワーク)	都市空間を観察しその特性をとらえ,説明できること。				
		8週	都市空間の特性を捉える課題 1 (発表会とディスカッション)	都市空間を観察しその特性をとらえ,説明できること。				

			l_t	<del>ار نا</del> ح	で明の特殊をも	フラマ細節の (シュ	トレカエット		スの性肿ナ	. LC3 :	= 24 0 0	で <b>キ</b> ス フ レ	
		9週			-ルドワークの	記える課題 2 (ショ )準備)	ートレクチャと	都市空間を観察しその特性をとらえ,説明できること  。					
	łthQ	10ì		都市営		足える課題 2 (発表会とディスカッ 都市空間を観察しその特性を				をとらえ,説明できること			
		11ì			・地域デザイン E体の開発等)	- 事例研究(ビデオ	講義:コミュニ	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。					
4		12ì	<b>周</b>	都市 ·	・地域デザイン	- 事例研究(レクチ	ヤ)	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。					
		13ì	<b>周</b>	都市 ·	・地域デザイン	ン事例研究(ミーテ	ィング)	多様な主体による ンについて説明で	しての都市・地域デザイ				
		14ì	<b>周</b>	都市 ·	・地域デザイン	ン事例研究(ミーテ	多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。						
		15ì	周 多	発表会	<b>ミ</b> とディスカッ	ノション, 最終総括		多様な主体による協働作業としての都市・地域デザインについて説明できること。					
			周 =	予備									
モデルコス	モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標												
分類 分野			分野		学習内容	学習内容の到達目標					ンレ	授業週	
						現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。						後2,後3,後 5	
			建築系分野			近現代都市の特質と課題について説明できる。					5 後5		
専門的能力	<u>分野別σ</u>	専			計画・歴史	現代にいたる都市計画論について説明できる。				5		後2,後3,後 5	
(4) 10)能力	門工学	连来示力:		) ±1	可圖、症火	市街地を開発する仕組みについて説明できる。						後11,後 12,後13,後 14,後15	
						建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。						後11,後 12,後13,後 14,後15	
評価割合													
試験			発表		表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他		合計			
総合評価割合	<b>0</b>	0		0		0	0	100	0	100		0	
基礎的能力	0	0		0		0	0	0	0	0			
専門的能力	0	0		0		0	0	90	0 90		90	3	
分野横断的能力 (		0		0		0	0	10	0 10				